

6月20日
試練に耐える人
創世記12章7～20節

12:7 そのころ、【主】がアブラムに現れ、そして「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える」と仰せられた。アブラムは自分に現れてくださった【主】のために、そこに祭壇を築いた。12:8 彼はそこからベテルの東にある山のほうに移動して天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は【主】のため、そこに祭壇を築き、【主】の御名によって祈った。12:9 それから、アブラムはなおも進んで、ネゲブのほうへと旅を続けた。

12:10 さて、この地にはききんがあったので、アブラムはエジプトのほうにしばらく滞在するために、下って行った。この地のききんは激しかったからである。12:11 彼はエジプトに近づき、そこに入ろうとするとき、妻のサライに言った。「聞いておくれ。あなたが見目麗しい女だということを私は知っている。

12:12 エジプト人は、あなたを見るようになると、この女は彼の妻だと言って、私を殺すが、あなたは生かしておくだろう。

12:13 どうか、私の妹だと言ってくれ。そうすれば、あなたのおかげで私にも良くしてくれ、あなたのおかげで私は生きのびるだろう。」 12:14 アブラムがエジプトに入って行くと、エジプト人は、その女が非常に美しいのを見た。 12:15 パロの高官たちが彼女を見て、パロに彼女を推賞したので、彼女はパロの宮廷に召し入れられた。 12:16 パロは彼女のために、アブラムによくしてやり、それでアブラムは羊の群れ、牛の群れ、ろば、それに男女の奴隷、雌ろば、らくだを所有するようになった。

12:17 しかし、【主】はアブラムの妻サライのことで、パロと、その家をひどい災害で痛めつけた。
12:18 そこでパロはアブラムを呼び寄せて言った。「あなたは私にいったい何ということをしたのか。なぜ彼女があなたの妻であることを、告げなかったのか。

12:19 なぜ彼女があなたの妹だと言ったのか。だから、私は彼女を私の妻として召し入れていた。しかし、さあ今、あなたの妻を連れて行きなさい。」 12:20 パロはアブラムについて部下に命じた。彼らは彼を、彼の妻と、彼のすべての所有物とともに送り出した。

5月23日のペンテコステの礼拝の後、

創世記から

アブラハムの生涯と信仰を学んでいます。

新約聖書の中で何度も何度も大切な所で

アブラハムが登場します。

聖書を読み解くカギの一つが

アブラハムの生涯と信仰を知ることです。

神様はアブラハムが
祝福の器となるために
3つのことを命じました。

- ①あなたの土地を離れ、
- ②あなたの親族を離れ、
- ③わたしがあなたに示す地に行け。

①土地を離れる、
土地に頼る生活を離れる、
神様に頼る生活を始める。

良い土地、悪い土地
農業、鉱業の成果。

繁栄を求める生活、繁栄第一の生活
良い土地の奪い合いになっていく。

②あなたの親族を離れ、
血族、民族によるつながりの人間関係から
信仰による人と人とのつながり。
利害関係が中心の人のつながりを離れ、
神様を中心とする共同体の形成。

このような生活を通して
神様からの祝福を受ける生活を行う。

またこの信仰に生きることを通して
回りの方々が物質、金銭の祝福ではなく、
神様の祝福を受けていく、
神様の祝福を届ける
祝福の器となることが使命

パウロは土地地縁、親族との分離を
古い服を脱ぎ、新しい服を着た
譬えで説明しています。

パウロはコロサイ3章で
古い人をその行いと一緒に脱ぎ捨てて、
あたらし人を着たと表現しています。
あたらしい人は、造り主のかたちに似せられてま
すます新しくされ、
真の知識に至るのです。

アブラハムはこの祝福の器となるために
試練、訓練を受けて、
内実とも古い生き方が削り取られて
祝福の器に成長していきました。

アブラハムはシェケムに来た時、
そこにはカナン人が住み、
モレの檜の木の下で偶像を拝んでいる
そこを約束の地、祝福の地として与える
とアブラハムに言われました。
アブラハムはアーメン、感謝しますと
そこに祭壇を築いて礼拝をしました。

アブラハムはシェケム近辺で
天幕を張る、牧畜をするにふさわしい場所を
捜し、ベテルとアイの間に天幕を張って
生活し、祭壇を築いて、
主の名によって祈りました。

9節で

アブラハムはなおも進んでネゲブの方へと
旅をつづけた。

その地に飢饉が起こったので、アブラハムはエジ
プトにしばらく滞在するために下って行った。

アブラハムはなぜ、南の端、ネゲブへ行ったのでしょうか。

9節には

「それから、アブラムはなおも進んで、ネゲブのほうへと旅を続けた。」とだけ書いてあります。

せっかくベテルとアイの間のところにいい場所を見つけて、祭壇を築き、天幕を張り、お祈りしたのになぜネゲブへ行ったのか。

ネゲブへ行ったとき、そこで祭壇を築いて
主の名によって祈ったとは書いていません。
ネゲブに飢饉が起こったので、祈ることも
祭壇を築くこともなく食料を求めて
エジプトに下っています。

アブラハムがシェケムについた時
主はアブラハムにこの地を与えると
言われました。

この地が約束の地だ。

そこにカナン人が住んでいたので
天幕を張るふさわしい場所を探して
ベテルとアイの間に定住の地を見出して
天幕を張り、農耕、牧畜を始めました。

そこには先住民のカナン人がいる、山の上の高
地で耕作や牧畜にベストではない。

こんないきさつで

良い土地を求めて南のネゲブへ。

ウル土地を離れたものの

良い土地が欲しい、肥沃な土地が欲しい、
カナン人から遠慮しなくてもいい土地が欲しい、
こんな動機から南の肥沃な土地を捜してネゲブ
に行ったかもしれません。

土地を離れても土地への依存心、執着心から
離れていませんでした。

肥沃な土地と人間的に思ってネゲブに行きましたが、そこに飢饉が襲って来ました。飢饉から逃れるためにアブラハムはさらにエジプト行の選択をしました。

残念ながら飢饉の中でも祭壇を築いて祈っていません。神様の御心を伺おうとしていません。ウルのを離れましたが、肥沃な土地が欲しいという思いからは聖別されていません。

祭壇を築くことなく祈ることなく、
食料のあるエジプトに魅かれて約束の土地でな
いエジプトへ行きます。

このエジプトでも祭壇を築いていません。お祈り
もしたと書いていません。わたしの示す土地に行
きなさいという命令もどこかへ吹っ飛んでしまっ
ています。

彼はエジプトに近づき、そこに入ろうとするとき、
妻のサライに言った。「聞いておくれ。あなたが見
目麗しい女だということを私は知っている。

12:12 エジプト人は、あなたを見るようになると、
この女は彼の妻だと言って、私を殺すが、あなた
は生かしておくだろう。

12:13 どうか、私の妹だと言ってくれ。そうすれ
ば、あなたのおかげで私にも良くしてくれ、あなた
のおかげで私は生きのびるだろう。」

アブラハムはサラの美貌に頼って難を逃れようとしています。

サラの美貌、それは遺伝的なもので、
父から、父祖からいただいたもの。

神様はそのような親族から離れるように、
人間的な価値観から離れるように、人間的な
つながりを聖別して、神様からの
祝福に生き、祝福を分け与える器となることを
期待されています。

ここでは全部背いて不信仰で突っ走っています。

12:16 パロは彼女のために、アブラムによくしてやり、それでアブラムは羊の群れ、牛の群れ、ろば、それに男女の奴隷、雌ろば、らくだを所有するようになった。

新改訳2017は

アブラハムにとって、物事は彼女のゆえにうまく運んだ。

捨てたはずの人間の魅力、
サラの魅力を利用して
物事はすべてうまくいってしまいます。
信仰の「し」もない世界となってしまいました。
祈らないとアブラハムでさえここまで堕ちてしま
います。祈らないことは大変なことです。

パロの高官たちが彼女を見て、パロに彼女を推賞したので、彼女はパロの宮廷に召し入れられた。

アブラハムは妻のサラにアブラハムの妻であることを隠してアブラハムの妹、腹違いの妹と言っておくれと頼みました。それはアブラハムにとってメリットはあってもサラさんにとってはエジプト王も側室になることで罪を犯すことであります。

サラははいと言ったのでしょうか。

どんな気持ちでアブラハムの言動を見ていたのでしょうか。ノーとなぜ言わなかったのでしょうか。

この時代、エジプトに於いて、
カナンの世界において、カルデヤのウルに
おいて許されていたこと、習慣的なことで
あったかもしれません。

しかしアブラハムを祝福の器とするために
この神様を知らない土地を離れる、この土地の
習慣、しきたりを離れて
神様の御心を行うために召されています。
アブラハムの訓練の一コマです。

12:17 しかし、【主】はアブラムの妻サライのことで、パロと、その家をひどい災害で痛めつけた。

アブラハムが不信仰の罪、

うそをつく罪を犯す、

その結果、パロとその家族に災害が下り

痛めつけられ苦しむことになった。

なぜこのようなことが起こるのでしょうか。

神のしもべ、クリスチャンは
地の塩であります。

神様に従い、証しの生活をして、
この世が腐敗、墮落しないようにする役割をもっ
ています。

アブラハムが祈らなくなり、妻の美貌を自己利
益に用いる不信仰になると、
塩の役割がなくなり、世の中は腐敗して
世の人がその苦しみを受けていきます。

アダム・エバが罪を犯してしまった。

その結果土地が呪われ、

土地はいばらやアザミを生ずるようになりました。

アダムの罪の結果

大自然が苦しみを受けるようになりました。

ソドム・ゴモラの町にロトの家族が住んでいました。

ロトの家族も罪の誘惑の中に墮落してしまいました。

町のために祈る責任、使命をロトの家族は果たしませんでした。

その結果ソドム、ゴモラは火と硫黄が降ってきて滅亡しました。

ソドムの罪ではありますが、ロトの家族が祈る信仰を放棄した結果でもあります。

祭壇を築いて祈ることは大切です。祈ってさえいればアブラハムはこんな問題を起こさなくても良かったかもしれません。

私たち、一人で祈れなくても日曜日の礼拝に集うことで祈りの場に導かれます。週日の集会でも祈りの場に導かれます。

もちろん個人で祈れることは最高です。

アブラハムの試練、訓練を見ながら
私たちも一步一步成長しましょう。

アブラハムのような信仰の父と呼ばれた人も
信仰の訓練を受けながら、
試練をくりながら
失敗を繰り返しながら
生まれ故郷、父の家を離れ
神様の御姿に少しずつ似る者に変えられていき
ました。

すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。

ヤコブ1章17節

祈り